令和４年３月１６日
健康福祉部
健康長寿社会づくり推進課食育推進係
電話：027-226-2427　　内線：2427

「和食文化絵手紙コンテスト」授賞式について

群馬県食育推進計画（第４次）ぐんま食育こころプランでは、県民の心身の健康を守り、「健康寿命の延伸」と「幸せ」につながる食育の推進を目指しています。

このたび、栄養バランスに優れた食事として世界から注目をされている「和食」への関心を高め、県民の健康増進につなげることを目的に標記コンテストを実施したところ、多くの優れた作品の応募があり、審査の結果、入賞作品が決定しましたので、下記のとおり授賞式を開催します。

１　授賞式

（１）日　時　　令和４年３月１９日（土）　１４時００分から
（２）会　場　　県庁舎２階　ビジターセンター

２　受賞作品

別添受賞作品一覧のとおり

区分	受賞作品数
最優秀賞	1
優秀賞	4
入選	7

３　和食文化絵手紙コンテストについて

（１）テ ー マ　　未来に伝えたい「和食文化」
（２）募集期間　　令和３年１２月１３日（月）～令和４年１月３１日（月）
（３）応募状況　　応募作品数　６０３作品（応募者数　４５１名：年齢５歳～９１歳）
（４）審 査 員　　特別審査員：小林 生子　氏（日本絵手紙協会認定講師）
　　審　査　員：地域食文化継承検討会構成員

４　その他

入賞作品は、群馬県の食育啓発資材に活用するとともに、県ホームページに掲載します。
また、応募作品の一部について、３月中に県ホームページで紹介する予定です。

※この催しは、次の団体等の後援をいただいています。
群馬県教育委員会、アグリレディースネットワークぐんま、関東農政局、共愛学園前橋国際大学短期大学部、群馬県医師会、群馬県飲食業生活衛生同業組合、群馬県栄養士会、群馬県卸売市場連合会、群馬県学校栄養士会、群馬県学校給食会、群馬県給食教育研究会、群馬県牛乳販売農業協同組合連合会、群馬県牛乳普及協会、群馬県高等学校教育研究会家庭部会、群馬県国公立幼稚園・こども園長会、群馬県歯科医師会、群馬県歯科衛生士会、群馬県小学校中学校教育研究会中学校技術･家庭科研究部会、群馬県食生活改善推進員連絡協議会、群馬県私立幼稚園・認定こども園協会、群馬県スーパーマーケット協会、群馬県スローフード協会、群馬県生活協同組合連合会、群馬県生活研究グループ連絡協議会、群馬県調理師会連合会、群馬県農業協同組合中央会、群馬県農村生活アドバイザー協議会、群馬県ＰＴＡ連合会、群馬県保育協議会、群馬大学共同教育学部、群馬の食文化研究会、全国農業協同組合連合会群馬県本部、高崎健康福祉大学、東洋大学食環境科学部

受賞作品一覧

最優秀賞

作品
氏名またはペンネーム
（市町村）　年齢※応募時
◆絵手紙に込めた思い

新井 心菜（みどり市）15 歳

◆一汁三菜のそろった和食を食べる機会が減ってきてしまい、和食を好んで食べる人も少なく感じるので、和食の美しさやあたたかさを知ってもらいたい、和食を好きになってもらいたいと思いを込めました。

優秀賞

黛 勝司
（高崎市）
77 歳

◆父が山より天然きのこ、畑より里いも、人参、ごぼう、葱等々。

母が煮干とコンブで味噌仕立て。一日三食これで決まり。続く朝食のたてっかえしが最高でした。

中澤 千香子
（渋川市）
75 歳

◆戦後、魚沼の豪雪地帯の米屋に産まれた私は、群馬県に嫁いで数々のおいしい麺類を頂き五十年が過ぎました。
今回の「和食文化」で伝えたい逸品としてうどんを描きました。日本３大うどんと言われる「水沢うどん」地元の誇りに思います。

高橋 ゆら（渋川市）17 歳

◆おせちとは新年に食べるお料理であり、さまざまな食材が使われ色鮮やかな仕上がりになっており、どの世代にも愛されています。また、料理一つ一つに意味が込められており長年受け継がれてきた日本の伝統的な食文化であるおせちをこの手紙を通してさまざまな方々に知ってもらいたいと思いました。

中嶋 澄江（前橋市）69 歳

◆12 月に未来に伝えたい和食文化（木部克彦先生）の講座をお聞きする事ができ、とても勉強になりました。「食が心、人を育てる」「和食は　無形文化遺産」食材の持ち味、栄養バランス、季節の表現、久し振りに大切な物に気がつきました。テンポ良いお話と伝統和食、先人の知恵を表現できたらいいと思い、応募しました。

入選

秋山 みさ子
（高崎市）
74 歳

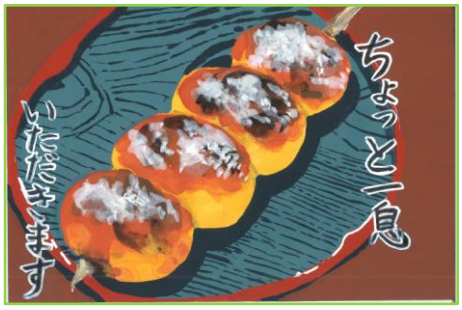
◆たくあん漬を祖父に教えてもらい５０年近くになります。畑で大根を育て、干大根にし、漬けたたくあんの味を楽しみに毎年漬けています。

中村 ふみえ
（前橋市）
70 歳代

◆日本の行事も和食も和菓子も大好きです。

石川 詩（前橋市）13 歳

◆和食は美味しいし、見た目でも楽しむことが出来ます。特に、ちらし寿司は華やかで、大人数でも食べることが出来ます。たくさんの具材でカラフルなちらし寿司を描いたこの絵手紙を見て、和食を思い出し、みんなが笑顔になるキッカケになればという思いで描きました。



新堀 栗茉（伊勢崎市）13 歳

◆昔から群馬県に伝わるソウルフードであるやきまんじゅうの良さを伝えたくて、この絵手紙を描きました。少し疲れた時に食べると、まるでその疲れがなくなるかのように心が落ち着きます。

遠田 紀恵子（下仁田町）63 歳

◆御赤飯は、昭和の時代には、各家庭の“晴れの日”の行事食の中にいつも登場していました。

細谷 節子（前橋市）

◆和食基本のだしは、だしの素材を組み合わせることによって相乗効果がでて旨味が増すことを描きたかった。

神保 千代子
（前橋市）
78 歳

◆幼少の頃、ご飯が足りなかった時、母がつくってくれたすいとん。とても美味しかったです。気軽に作れて「おだんごの汁を作って!!」と良く言ったものです。現在は色々な具を入れて作っていますが、前橋名物トントン汁として売っています。楽しみです。末永く残して欲しいです。